

# 大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の句のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。



## 魅惑の大雪山

仕事に向かう途中、買い物に行く途中、家に帰る途中、ふと見上げると大きく広く続く山並み。大雪山は東川の町中からよく見える山です。見慣れた人には、そこにあるのが当たり前で、特段感慨もない風景になっているかもしれません。でも、この山、実はとてつもない魅力を秘めています。

例えば、たった一度大雪山を歩いてしまったがために、登山とは無縁の生活を送っていた学生が、今や日々山を歩くことを生業とするようになったとか。都会で生まれ育った人間が、引き寄せられるように大雪山の麓に移り住んで来たとか。まあ、両方とも私のことなのですが、こんなふうに大雪山によって人生が一変してしまった人もいるくらいです。

だって、大雪山の素敵なことと言ったら！広くて、高くて、平らで。荒涼としていて、そしてどことなく毅然としていて。こんな風景が世の中に存在して、そして、そこを歩くことができるなんて……。初めて登ったときに受けた衝撃と高揚感は今でも忘れられません。

そして大雪山に惹かれるのは、なにも私に限った話ではなく、まわりの仕事仲間・山仲間はその人ばかりです。誰もが大雪山のことが大好きで、たくさんの方が遠くからやってきています。

多くの人を引き寄せる魅力に満ちた山。東川の町中からよく見える、あの山はそんな素敵な山なのです。

山楽舎BEAR 土栄 拓真

## 短歌

鬼も来よ節分暖気の宵なれば福茶しつらえ待ちあるほどに  
忘れぬためにメモせし紙を置き忘れぬことと自分を許す  
鰻ありきゆり玉子に太巻と黙して食むや一家三人  
久しぶりにソックスの踵編みながら娘に教へる時を忘れて  
やり直し利かぬ人生さぐりきて鉢花に言葉かけて水やる  
見上くればしらしら細き昼の月この世の残酷みんな嘘です  
隣り家の見事に大きい雪だるま道行く人に語りかけ居る  
素晴らしき出会いと思ひ喜ぶに必ず別れがついて来るとは  
バレンタインも無縁となるや団塊の息のおすそわけのチョコも淋しく  
今年は何んたる冬よ昨日の雨今朝は豪雪悩まされいる  
同世代集えば語る貧困を忍びこらえし半世紀なり  
たそがれは酸い甘い塩ばいかとりとめもなきわが影法師  
四・六時中世話してくる人ありて我はなんとか息をしている

## 俳句

悲しくて笑ふほかなく卒業す  
弥生尽人の別れをせかすかに  
啓蟄やひきこもりやめいざ行かん  
恋猫を見かけぬ街の影は鋭角  
幾星霜<sup>あか</sup>緋き毛氈<sup>あか</sup>飾る  
啓蟄や旅始まりぬ光なか  
吾れ泣けば雛も泣きたる夜の在りぬ  
寝乱れた髪梳く春のひびきかな  
人の訃を聞きかえし聞く春あらし  
東風うけて農の六感<sup>あせ</sup>攪れり  
もてなしの客の茶菓子は春の彩

秋山深雪	杉山ひろのり	宮坂紫雲	青野公花	小林露葉	小山林蓉子	松山蓉子	澤田久美子	石澤清宏	山口佐知子	杉山りつ	徳光吐苦	尾池真沙子	井山一文	中田治子	清水チヨ	矢沢ますえ	笹田富士子	岩田ふじえ	宮坂敬子	岡澤チズ子	永江栄子	嶋崎ミ子	松倉和枝	瓜生昭子
------	--------	------	------	------	-------	------	-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------